



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：イラン外相を OIC に招待するも日程合わず

6月1日、ザリーフ外相は、6月18日からジッダで開催が予定されているイスラーム協力機構（OIC）の外相会合には、P5+1との核交渉の日程と重なっていることから、「私が出席することはできない」と述べた。5月13日にサウジアラビアのサウド・ファイサル外相が、ザリーフ外相をサウジアラビアに招待することを明らかにして以来、地域のライバル国間の関係改善が進む契機として、イラン外相のサウジアラビア訪問の実現に期待が高まっていたが、その実現は若干遠のいたことになる。（サウジアラビアによるイラン外相の招待については「サウジアラビア：イラン外相の招待」『中東かわら版』No.25（2014年5月14日）をご参照ください）

ザリーフ外相のサウジアラビアへの訪問に関しては、5月13日のサウド・ファイサル外相の発言以来、時機や形式を巡って様々な憶測が流れていたが、5月28日付『イラン国営通信（IRNA）』は、ザリーフ外相がジッダで開かれる OIC 外相会合への参加を招待されていることを報じた。翌29日、イランのアブドゥルラヒヤーン外務次官は招待の事実を認め、「（サウジアラビアの）友好的な動きを歓迎する」と述べた。これを受け、ザリーフ外相によるサウジ訪問が近いとの期待があったが、今回のザリーフ外相の発言により、その可能性が否定された。

それに先立つ5月27日、EUは、イランとの次の核協議は6月16日から20日に実施すると公表している。前回の核協議は5月14日から16日に実施されたこと、現在7月20日を期限として交渉が進められていること、そして各協議の前には専門家会合を開いて意見を調整する期間が必要となることを総合的に勘案すると、6月16日から20日の協議実施は順当な日程である。以上から、イラン側が核協議を OIC 会合への外相不参加の口実に利用したとは考えにくい。イラン国内からザリーフ外相のサウジアラビア訪問に反対の声が上がる可能性は否定できないが、これまでのところそのような動きは顕在化していない。両国は時機を再度調整した上で、訪問の実現に向けて動いていくと見られる。

（村上研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799